

環境

# 連続運転式を本格販売

## 軽質油収率90% 訴求

### リサイクルエネルギー

環境ベンチャーのリサイクルエナジー（広島県福山市）は、軽質油分を高収率で得られる連続運転式廃プラスチック油化装置の販売を開始した。早期に国内外で計20機程度の販売を目指す。ポリオレフィンなど3種類の樹脂を触媒による接触分解で油化する装置で、軽質油（ナフサ、灯油）を70～90%の高収率で得られるのが特徴。昨年、国内で初めて販売実績を上げた。ワックス分が副生しにくく、生産コストを抑制できる点などもアピールし、プラスチック成型メーカーや産業廃棄物処理業者、自治体などに販売する。

### 早期に内外で20機達成へ

ポリエチレン（PE）、ポリプロピレン（PP）、ポリスチレン（PS）を油化でき、ポリエチレンテレフタレート（PET）と塩ビ樹脂（PVC）の混入を10%程度まで許容する。使用済み包装材料や農業用フィルムなどを投入原料に想定している。油分の収率は重量ベースで80%以上。内訳は、ナフサが40～60%、灯油が30～50%、重油が10%と、触媒を使わない高温熱分解法（重油収率が約70%）に比べ軽質油の収率が極めて高く、ワックス分の生成も少ない。PPを油化した場合に軽質油を最も多く回収できるといふ。脱塩素剤を用いることで残留塩素も100ppm以下に抑えられる。

国内では廃プラを毎時200キログラム投入できる装置を、アジアを中心とする海外市場では同400キログラム投入できる装置を販売する。装置1ユニットの大きさは、400キログラム投入可能な装置で縦10

×横10×高さ10。連続運転期間は3～4日で、1日当たり最大で約10トの処理が可能だ。使用済みの鉱物系触媒をリサイクルした粉状触媒を使用する。1回当たり約1トの廃プラを処理する小型バッチ式油化装置に比べ、運転コストを2分の1～3分の1に抑制。同社には電機メーカー、製薬会社、環境コンサルタント業などからの引き合い、問い合わせが寄せられているという。